

第3回「鹿児島港本港区エリアまちづくり検討委員会」 結果概要

1 開催日時・場所

平成30年10月17日（水）午前9時30分～午前11時30分
鹿児島県市町村自治会館4階「401会議室」（鹿児島市）

2 会次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - ① 関係団体・県民からの御意見等について
 - ② 応募事業者からの提案内容について
 - ③ グランドデザイン素案について
 - ④ その他

3 結果概要

- (1) 事務局から次の事項について資料に基づき説明。
 - ① 関係団体・県民からの御意見等について
大学生・短大生及び県政アンケートモニターに実施したアンケート調査結果、鹿児島市内を中心とする関係団体への意見等調査結果を説明。
 - ② 応募事業者からの提案内容について
民間提案公募に係る応募事業者（7者）との対話結果について「開発の基本的な考え方」、「事業化の基本的な考え方」等を説明。
 - ③ グランドデザイン素案について
グランドデザイン素案について説明。
- (2) (1) ①において、関係する団体の御意見を直接伺うため、オブザーバーとして次の3団体に御出席いただき御意見をいただいた。
 - ・鹿児島商工会議所
 - ・鹿児島港運協会
 - ・（一社）鹿児島市商店街連盟

4 委員会からの主な発言（要旨）

- (1) 委員からの主な意見
 - 導入機能、規制緩和
 - ・ 重複したようなもの、競争を煽るようなものを造っても共倒れになる。
 - ・ 規制について、「ここにこういう開発提案があるから緩和します」というのはよくない。規制がかけられたそもそもの趣旨や経緯をふまえた上で緩和は検討されるべきではないか。
 - ・ 用途規制はある程度の緩和は必要だと思うが、3万～5万㎡の店舗が臨港部にできることは、まちなかの商店街にとっても厳しく、ある一定の規模の条件を付けない限りは難しいと思うので、できれば1万㎡という範囲内と思うが、規模をどうするか議論いただきたい。

- ・ 規制について規模の話は非常に難しいが、一方で民間事業者の事業意欲も喚起しなければならないので、こういった規制が一番適切なのかはよく考えるべきである。
- ・ 本港区エリアについては、将来の子供達のため国際観光都市にふさわしい来て見て感動するまちづくりの拠点を実現したいという考えであり、複合的な機能を持たせるという観点もあるので、その可能性を探るため、規制については見直しをしていただく方向もあるのではないかと。
- ・ コンベンションは賃借料だけでは儲からないが、まちとか県に与える影響は非常に大きく、このエリアだけでなく鹿児島全体の経済が浮揚するものとして、行政も財政出動するような形のPPPも検討すべきではないかと。
- ・ コンベンションについては以前から議論があるものであり、この問題をこの場で全て解決するのは難しい。
- ・ この極めて重要な場所をどう活かすかということになれば、春夏秋冬、365日、24時間という視点でどう見るかということ、その中で流動人口をどうやって増やしていくかということを中心としないといけない。
- ・ 北ふ頭やウォーターフロントパークなど海の近いところに良い形で点在するクオリティの高い小規模な店舗などが集まった施設群ができることを望みたい。
- ・ 水際に大規模なオープンスペースがあることは本港区エリアの特色でもあるので、ウォーターフロントパークの活用は必要であるが、貴重なオープンスペースを損なってまで行われるべきではない。
- ・ 県実施のアンケート結果をみると、現状の利用は一定の評価を得ており、これ以上の賑わいは望まれていないとも解釈できる。

○ 市電延伸，臨港道路

- ・ 市電については高架とすると錦江湾と桜島，鹿児島市街地を見ることができ、観光の目玉になると思うので、県と市が話し合いをして重要性を認識していただきたい。
- ・ トランジットモールで電車を降りたらすぐに目の前にレストランやカフェが並んでいるような美しいまち，ここでしかあり得ないまちというのは本港区エリアだからこそできる。
- ・ エリアマネジメントの観点から交通アクセスはシームレスにする（途切れない）こと，特に市電延伸では桜島フェリーとの結節点が大事である。
- ・ 観光路線のルートの検討が可能となるために，ウォーターフロントパークとドルフィンポート敷地の間の臨港道路について，若干の線形の動きはあるにしても，この存続を明示してほしい。
- ・ 臨港道路は公共投資により整備されたものであり，現状の道路線形の中でも可能な施策はあるのでそれを強調する方が適切ではないかと。

○ 北ふ頭，航路

- ・ 港町を開発するので船と港湾を抜きにしては語れない部分があり，荷役機能と観光を安全性の面で分けるのは大事である。
- ・ 航路など港の機能を必ず維持してほしい。

- ・ 上屋の上に遊歩道などを作るのはいいが、荷役作業をしている所に降りてくるようなことだけはやめてほしい。
- ・ 現在の離島航路のバースについては角地の両側を使っているが、条件を整えば縦に2隻並べるなどの判断はできるかと思う。
- ・ 産業、港湾、観光その他のそれぞれの機能の部分を切り分けして、ベストな役割と動線を整理すればよいのではないかと思う。

○ 住吉町15番街区

- ・ 住吉町15番街区は一体利用は難しいとあるが、ではどうすべきかをグランドデザインで示す必要がある。
- ・ 譲渡した場合には転売されることもあるので、今後どんな形で使われても文句を言えない。

○ その他

- ・ 対象地域が広大であるので、いくつかのフェーズに分けた上で、それぞれのフェーズにおける開発のイメージを提示し、民間の活力がスムーズに活かせるような計画立案を望む。
- ・ 段階的な整備をした場合、一体性のある整備が行われるかが懸念される場所であり、個々の事業者の多様性・独自性は認めつつも、一つのまちとしての統一感が必要ではないか。
- ・ 建物の色合いや案内標識などを俯瞰してこのまちをみるようなトータルプロデュースやトータルデザインをする仕組みが必要ではないか。
- ・ 本港区エリアだけではなく、天文館や中央駅と繋がって全体のまちであることを踏まえたマネジメントが必要であると思っている。

(2) オブザーバーからの主な意見

- ・ 人口減少社会の中で地域経済を活性化するには交流人口をどれだけ増やせるかということにかかっており、MICEの誘致や多人数を収容できるコンベンション施設の整備が必要である。
- ・ コンベンション施設の建設においてはコスト面の課題（お金がかかる）もあるが、PPP、PFI、コンセッション方式など全国には官民連携の事例が多くあるので、それらを踏まえて取り組んでいただきたい。
- ・ 大規模な商業施設ができるのは歓迎しない。
- ・ 開発コンセプトは基本的には賛成であり、貨物主流の港について一般県民が身近に感じる場となることを望む。
- ・ 港湾機能として荷役と観光の区分けを明確にしてほしい。
- ・ 本港区エリアは観光を主体とすることで大いに結構で、違った種類のものを作っただけであれば天文館としては連携しやすくなる。
- ・ 万人に共通する業種は食である。そのため、食を中心とすればマーケティング上も整合が取れると思う。
- ・ まちの真ん中に広場は必要だが、公園はいらない。
- ・ 商業施設は、鹿児島市の中心だけでも十分すぎるくらいある。